

令和元年 11 月 19 日

新潟市長
中原 八一 様

新潟経済同友会
観光推進委員会
委員長 高橋 秀之

提言「新潟市の観光推進に向けて～新潟奉行所復元の検討～」

新潟市内には有名な観光地や観光施設が少ないと一般的には言われており、特に城郭など観光の核となる施設がないことから、観光誘客に腐心する状況であります。

一方で、魅力的な観光地とするためには、観光資源の発掘や既存資源を活用する努力も必要であり、市民が一丸となって新潟について考え、行動することが、新たな新潟の魅力創造、発信につながると考えます。

そこで、新たな新潟市観光の可能性を探るべく、「新潟奉行所の復元」を検討いただきたく提言いたします。

○検討の必要性

- ・開港 150 周年を迎え、新潟市の湊町としての魅力が発信されていますが、これからの 50 年、100 年を見据えて一過性のイベントではなく、湊町としてのイメージが定着するようアピールを継続していただきたいと考えます。

開港当時の新潟を振り返ると新潟奉行所や奉行の役割は極めて大きく、徳川幕府が新潟奉行所を設けたことは、一湊町であった新潟町から、現在の新潟市へと飛躍的に発展していく大きな転換の一つと言えます。

新潟市は北東アジアにおける日本の拠点として自負しており、日本海沿岸交通の最重要網であり、それは新潟奉行所設置時期の幕末動乱期から明治初期までの歴史から始まっています。

- ・新潟市民は、郷土に対する誇りや自信が希薄でないかと感じることもあります。それは、新潟市民自身が新潟の魅力を十分に認識しようとしていないからでしょう。新潟奉行所の復元に向けた取り組みを契機とし、新潟市民がより深く新潟の歴史を理解し、考え、行動することで、主体としてのシビックプライドが醸成され、新潟市の新たな観光資源の発掘や活用、既存観光資源との連携がさらに進むことを期待します。

○復元に向けて

- ・蒐集資料によると新潟奉行所は、現在の新潟市中央区西堀通の新潟三越から榎谷小路を跨ぎ、NEXT21の敷地に建設されていました。新潟市街の中心地であり、ここに復元することは極めて困難なことから、候補地の検討が必要となります。可能ならば、公有遊休地などを考慮していくべきです。
また、新潟奉行所跡地に「新潟奉行所記念碑」も必要でしょう。
- ・資料をもとに作成された150分の1スケールの模型から、新潟奉行所は広大な敷地に長大な長屋門を構え、城郭や武家屋敷の特徴である櫓、物見、出格子窓、漆喰壁などの設えを施し、幕府の権威を示す建物であったことが窺えます。
復元後に一般公開できるよう建築基準法・消防法に適合させ、面積は1,000平方メートル以下とし、華美で高額な投資を行うことなく、市民の関心の高いエリアを中心に、可能な限り忠実に復元することが望まれます。
- ・現在までに箱館奉行所（北海道）、佐渡奉行所（新潟県）、山田奉行所（三重県）、長崎奉行所（長崎県）の4つの奉行所が復元されています。各地でボランティアによるガイドの充実や、趣向を凝らしたパフォーマンスなどでその歴史を紹介し、いずれも見学者の満足度向上に努めています。昨今の観光施設ではARやVRの技術を活用し、より分かりやすく体験できるものもあり、復元の際には工夫を凝らした展示や企画が必要と考えます。
- ・投資額を抑え、無理のないよう中期的スパンで市民を巻き込んだ取り組みとすることで、アイデアや協力を得やすくなり、愛される新潟奉行所となることが期待されます。新潟奉行所は、新潟市民の一層のシビックプライド醸成と、新潟の新たな魅力の一つとして国内外への発信に大いに資するものと確信いたします。

以 上